



號 七 十 四 第  
 月 八 年 六 十 和 昭  
 行 發 日 十 一 月 每  
 行 發 日 十 一 月 每  
 錢 五 金 部 一 價 定 誌 本 一  
 錢 六 金 (共 稅) 年  
 一 才 田 杉 編 行 發 行 總  
 一 一 七 西 座 郵 區 京 市 京 東  
 社 信 通 盟 同 所 行 發

# 戰時體制の推進

社長 古野伊之助

こゝ一月の間といふもの、内外情勢の變遷は實に目まぐるしいものであつた。

突如として起つた獨ソ開戦は國際情勢に如何にも深刻に且つ其前途は到底豫斷を許さぬ状態を示した。この情勢に鑑み國內に於ても遂に政變を捲き起し近衛公の第三次戰時内閣が組織されたかと思ふと佛印の皇軍増派に伴つて英米の資金凍結とか通商條約の廢棄とかいふやうな日本に對する經濟的壓迫は益々加はつて来るばかりで、全く今後の世界情勢の進展は何人も豫斷を許さぬ情勢となり、今や我日本は第二次世界大戦に乗出しつゝあるといふ感を深うせざるを得ないのである。

斯うした危局を眼前に置いて政府も一意國內體制の強化に邁進してゐるかのやうに思はれるのであるが、この國內の戰時體制の強化といふことに關聯して我々同盟の同志が受持つ任務も非常に大なるものがあると思ふ。

日々の政治、經濟、産業、社會生活其他凡ゆる分野に於ける情勢を一億國民に報道するに當つても我々の心構へが眞に確りしたものでなければならぬと思ふ。孰れ

社内夫々の時局研究會を設けるとか、職員會を通ずるとか、こゝによつて、社全體の正しき體制の確立をやつて行かなければならぬと考へてゐるが、今日は敢取へず自分の思ひついた儘を二、三述べて諸君の參考に供したいと思ふ。

## 戰時意識の昂揚

時局は切迫してゐるとか國際情勢が緊迫したとかいつてゐるが何といつても日本の一番大きな矛盾は、戰時意識の微弱なことにありではないかと思ふ。支那事變は我國有史以來の大戦争である。而もこの戦争は單なる支那大陸における戦争ではなくて世界戦争の一環であり世界戦の一翼である。支那事變處理といふやうな言葉が盛んに事變の當初に於て叫ばれたけれども支那事變のみ處理するといふ方法は成り立たないのであつてこの世界戦争の結末、之が東亞の結末でもあり支那事變の終局でもある。

我々は世界戦争に乗出してゐるのだ。この戰時意識の昂揚、我々の同僚が、同盟の家族がどしどし戰線に行つて戦つてゐるのである

といふ意識を先づはつきり各人が持つことである。この氣持が我々の日常の仕事の上にニュースを取扱ふ上に於て始終溢れ出て來なければならぬ。これが國民の戰時意識を昂揚させる根底であると思ふ。

## 割據意識の解消

長い間歐米の文物を取入れた近代日本の建設過程に於て我々の考へ方は兎角自由主義、資本主義、個人主義的な意識を基調にして總てのものを判斷し、さうした意識を基調として動く習慣が數十年來働いてゐると思ふ。各部が割據して夫々に自分の分野だけのことを考へてさうしてその一部が持つ全體に對する關係といふことに兎角冷淡であり、動もすると自分のことだけ考へて他人のことは無視するといつたやうな形が政治の上にも、經濟の上にも、日常生活の上にも、我々の戰場に於ても、この習慣が浸潤してゐる。之が今日の日本の大きな弊病であり病根であらうと思ふ。

官民一體化が叫ばれてゐるが事實は如何であらう。官吏はその城壁に立籠り民間は各自の立場を固守するといふ事が經濟新體制確立を滞りせしめてゐる一番大きな原因の一である。一億國民を結集する事によつてこの内外の危局は突破し得るのであるといふ意識に燃えて居らぬ證左である。この割據主義を先づ解消せねばならぬ。諸君が日常報道の任務に當る場合に

於て人の話を聞く場合、それを又ニュースとして報道する場合にも終始心して割據主義を破り、全體主義への心構へを體得して欲しい

## 自己反省

なほ今日の我々には自己反省が必要だと思ふ。之は恰度割據意識を清算してゆく上に先づ一番先考へなければならぬことでもあつた。他人がどうしてゐるかといふことよりも自分が何をしなければならぬか、之を國民の一人々々が自ら反省するといふこと、この氣構へが一番肝要だと思ふのである。

人間は全體の一部であると同時に、その一部が全體を構成してゐる。人間は夫々が生産者であると共に夫々が消費者でもある。人間は權利の主體であると同時に又義務の主體でもある。このことをよく考へて先づ消費者たる自分より生産者としてその任務を盡してゐるかどうか。物が不自由だ。缺乏を啣つ前に自分は一人の生産者として何を造り出してゐるか。即ち國民共同生活の爲に何事を寄與してゐるか。我々通信報道の任務に携つてゐる者は國民の一員として果して夫々の職責を完全に果してゐるか否かといふ事、生産者としての立場を考慮する事が第一だと思ふ。さうした人にして始めて消費の不足に文句をいふ資格がある。

權利を主張する前に自分の責任を先づ感じる、斯様にして各分野における自らを反省して自分のなすべきことを眞剣に考へ之をなすべくといふ態度、これのみが木當に舉國一體の形、今日の戰時體制に添ふべき心構であり仕組をつくる根底であると思ふ。

## 結 言

非常に抽象的な話になつたやうであるが戰時意識を昂揚すること、割據主義を清算すること、自己反省の態度、斯うしたことは現下の日本が直面する内外の危局に對し國民全體の態度として是非とつてゆかなければならぬことであるから、我々同盟の同志が日常の仕事をしてゆく上に於て國民全體をさうした方向に導いてゆくやうに、さうした心構を我々の日常の仕事に持つてゆきたいと思ふ次第である。

今日日本は戰史に類なき大戦争を敢行しつゝある。而もこの戦争は三年や五年で片付く状態ではない。今日の世界情勢から見ても五年續くか十年續くか、寧ろ戰爭状態が平常の姿であるとの考方を確り同盟の同志の中に確立して頂きたいと思ふ。

又割據主義の清算についてもこの小さな一つの集團の中にも各部とか局とかいふやうなことで相當につつまらぬ考方とか精力の浪費と思はれることをやつてゐることに氣付かれると思ふ。或る一部だけでどう成績をあげても併し全體の事は進めてゆかなければならぬ。これは何にもならぬ。同盟全體、三千の同志全體が、大家族である同盟全體としての能率を上げ、同盟全體の成績を高めてゆかなければならぬといふ全體意識を、同盟社内に於て先づ徹底して頂きたい。

又自己反省と先に述べたが、これは自分のなすべきことは何であるか己れの任務は何であるかに注意して最善を盡すことである。自らを反省する、自らを批判する、自らを自覺することである。さうした態度に三千の人々が一團になつて前進すれば期せずして舉國一體の形は確立するものと信ずる。以上の如き同盟本來の使命達成に邁進するため職員會、青年團の活躍を一層活潑に行きたいと思ふ。最近職員會の模様を見ると漸く其活動期に入り、大小三百に餘る種々な建議が出てゐる様であるが、之らは幹事の手許で整理分類してさうして私の手許に届けてくれるやうにしてゐる。今右の建議、意見がいろいろ纏つた時は實行し得るものはどしどし實行に移したいと思つてゐる。更に進んでこの組織を通して社考へなり諸君の希望なりを充分に相互に徹底し得るやうに有機的な機能を發揮させてゆきたいと考へてゐる。職員會を提唱して以來偶々耳にするところであるが、班組織が部長と對立でもなすやうなつまらぬ懸念がありはせぬか。之は職員會をつくる時に特に説明して置いた筈だが班長に各部局長といふものがないことにした。たゞ班員には局長、部長も各班を編成するといふことを特に置いて置いたがそれは直接仕事の上に、仕事の統制の上には始終連絡を持ち得る職員が暫く補佐の立場に立つて、その機會の少い人々に發言の機會を與へたいといふことだからさういふ考へたのである。正しき考の下に眞面目に自分の班のために五人とか十人とかの人々の爲に、良いことだと思ふことは遠慮なく提唱するといふことによつて、それが集積して社全體が一體となつてこの心構へに向つて行くのであるといふことをよく了解し、そのつもりでやつて頂きたい。

(與野奉公日定例訓辭)

# モスクワの五日間

入江啓四郎

## ロシアへの關心

是非ロシアに行つて見たいといはもう十何年前からの念願だつたが、滯歐三年半の最後、而も獨ソ開戦の慌しい空気のなかに、五日間をモスクワで、二週間餘を汽車のなかで暮し、其の外朝の六時から夜半の十二時過ぎまでチタで過した日数にすれば僅か乍ら、長年の希望がかなつたことは、思はぬ拾ひものであつた。

筆者がロシアに興味を持ち出したのは、支那研究の副産物である支那に深入りすればするほど、ロシアとの關係が、歴史的にも現實的にも濃くなる。だから支那研究の上には絶対にロシアを知ることが必要だとの結論に到達した。

曾て蒙古源流考を編いて見ると元太祖の先祖である布爾特奇諾は西蔵より逃れて今の東海を渡り、東して拜噶勒江に至り必塔地方を過ぎたが、衆これを戴いて君とした、と後代蒙古出現の基を築いた謂れが記してあつたが、拜噶勒江が貝加爾湖、必塔が赤塔であるとの考證が當つて居るか否かは別として、こうした些事につけても筆者は一度ロシアの地を踏んで見たいと思つて居た。

## モスクワ見物

ベルリン出發、最後の國際聯絡列車に乗つて、モスクワに着いたのは、獨ソ開戦當日の六月二十二日午後三時、サゾイ・ホテルで久我君と落ち合ひ、其の元氣な顔を見た時には、たまらなく嬉しかつ

た。筆者がジュネーヴに赴任の途丁度北支から歸還の同君を門司で迎へて、共に語つてから四年振りの再會だつた。

早速久我君の案内で、モスクワの市中見物と出かけた。日曜で人が多く、直ぐに目にとまつたのが、方々の食料品店で、店頭列を作つて居ることだ。食料品の買付けだそつた。その日は銀行の取りつけもあつた由。通る人々の顔つきも、いやに硬張つて居るとは、土地の人の話だつた。開戦第一日の衝動、軽い恐慌状態だ。

曇り加減だが段々天氣になり、ワシリーイ寺院のドームは金色に燦と光つて居る。モスクワへ来て豫で見たと思つて居たものが二つあつた。それはレーニン圖書館でもなく、クレムリン宮殿でもない。其の一はピョートル大帝時代「ドイッ人街」(ニエメツカヤ・ウリツア)と呼ばれた外人居留區域、其の二はピョートルの異母姉ソフィヤが幽閉されたモナステールである。就中ドイッ人街は、舊時の文化中心地區で、ピョートルが偉くなつたのも、宮廷生活を抜け出て、此のドイッ人街に出入し、多くの優れた外國人より新知識を吸収したからだ。今それがあるのかないのか、モスクワ人に尋ねて見たが明答を得ず、あることはあるが大分遠い所だとかで、宿望を達し得なかつたのは残念だつた。

若しピョートルが眞に實權を握つてから、第一着手に宮廷内の荒療治を斷行したのが、當時モスクワの北條政子、異母姉ソフィヤの幽閉だ。がこれは「雀ヶ丘」より見下したモスクワ市の一端に聳えるノヴォ・デイエヰチー・モナステールが、其の寺院だと説明されて、甚だ遠景乍らどうにか渴を癒した。

## 赤都に足止め

モスクワ到着の夜は、久我君の案内でレストラン・アラグヴィイで御馳走になつた。日頃は繁華昌と聞いたが、其の晩は日曜にも拘らず、ひっそり閑として居るのは、矢張り開戦のショックだらう。

食事をすまして出發驛に出かけたのが、發車前十分、警官やインテリリストの者がやつて来て、ドイッから来た外國人は一應足止めとのこと、すつたもんだやつて居る間に、汽車は定刻午後十時動き出した。結局汽車より危く飛び降り、二十六日迄更に四日間モスクワ滞在となつたのだが、これは勿怪の幸だつた。何でも我々をモスクワで足止めたのは、日本人だけは除外するとの係への命令が誤解されたとの事、これも獨ソ開戦で氣分が動揺して居たせいであらう。斯うした誤解は筆者にとつては反つて結構であつた。燈下管制下の第一夜は取り敢ず久我君の事務所兼住宅に落ちつくこととしたが、其の後も引續き御厄介になつてしまつた。ベルリンでも茲一、二年來飲めぬ本物のドイッ・ビールが、徒らに久我君の部屋に垢まみれになつて居たので、滞在中にすつかり整理しておいた。

モスクワ出發は六月二十六日の夜平素なら八日目で滿洲里着のところを、驛々で西行き軍用列車を待避したため、十三日目の七月八日漸く滿國境を越へホツとした

# 三増鹿兒島支局長逝去

鹿兒島支局長三増正徳氏は豫て病氣療養中の處藥石効なく七月三十一日午後十一時鹿兒島支局内に於て遂に逝去されました。享年四十三。

同氏は下關市の出身。九州日報社、福岡日日、關門日日の速記部を経て大正十三年五月日本電報通信社下關支局入社、同主任、廣島支局長、鹿兒島支局長主任より昭和十一年六月我社鹿兒島支局長を命ぜられ今日に至る。平素精勵格勤責任感の強い同氏は病に倒れるも猶第一線より退くことを肯せず最後まで支局事務を執つておられました。

寔に痛惜の至りに堪へず茲に謹んで弔意を表し心から同君の冥福を祈る次第であります。尙告別式は八月三日同支局内に於て嚴肅盛大裡に執行されました。

# 南京だより

長谷川 仁

## 平和な南京

中支で一番治安の確立してあるところと云へば先づ南京だらう。ここへ来てからももう二月月になるが未だ邦人が拉致された話も聞かないし、テロ事件も見たいことがない。流石汪精衛氏の御膝下となつて居るが、鼠一匹も潜入出来ないといふのは、張翼り城壁だ。事變前でも北京の街を日本の婦人が歩いてゐると痴漢がよく悪戯をやつたものだが、南京で太平路あたりを浴衣がけで歩いてゐても一向そんな目に遭はない様だ。勿論そこには皇軍の威力があるのだが、排日の牙城であつただけに反つて不思議に思はれる位だ。

## 百廿度の炎暑

今南京は連日百二十度の炎暑だ内地だと百度近くになつたらやれ

## 南京の空氣

南京の空氣は勿論親日一色だ。然し最近筆者は次の如き話をふと耳にした。それにある女學校で「汪精衛氏と蔣介石とどつちが好きだ」といふ問題を提出したら十人

の内八人が「蔣は民族の英雄だから好きだ」と答へたさうだ。この一事を以てしても親日一色の裏に彩られた別の色彩を見逃す譯にはゆかない。これが上海になると更にこの現象がはつきりと認識される。然しこの空氣が和平の障害になるとは思はないが、この空氣の浄化は和平運動に大きな促進を齎すことは言を俟たない。

## 立役者

現在國府の要人は皆非常な熱意を持つて六面八臂の活躍をしてゐる。然し何と云つても立役者は汪精衛氏と林柏生氏の兩人だ。

今度の汪氏の訪日はたしかに汪氏の男を擧げた。これに加ふるに獨伊諸國の國府承認は民衆をして彼の信用を倍加したものと云へる汪氏の脇役として人氣のあるのは林柏生氏だ。五尺足らずの林氏はよくあれ程働けると思ふ位精力家だ。記者團に對しては愛嬌もよく時には煙に巻く位の芝居氣のあるスポークスマンだ。筆者はこの二人を見る毎に想ふことはこの二人の立役者を輔佐する秀才が餘りないことだ。之は國府當面の課題の一端であり、國府の育成強化上是非考慮せねばならぬことである。

## 親日と知日

現在國府の官吏の殆どは親日だ然し遺憾なく知日は非常に少い。正直なことを云つて現在重慶には多數の知日派がある。これ等が抗戰陣營をリードしてゐるものとも云へる。

現在の國府の最大の缺陷はこの知日分子の少い事だ。毎日々々同じ様な人間が顔を揃へ、「好、々」と御世辭を並べて乾杯してもこれは眞の親善にはならない。要は國府中堅官吏をして日本を勉強させねばならない。(南京軍檢閱濟)

# 職員會報

世界危局に立つ日本の、同盟が有つ使命は重い。我々が受けもつ仕事の一つが祖國の繁榮と結びついてゐることを深く自覺するものだ。社員會が、いま全国的に班の組織を完了して下情上通の機關となつたことは、天下の非常時に際會してひとしほ意義がある。我々は建設の希望に燃へて葛らに前進するのみだ。活潑に開かれる各班の建議案がやがて大同盟をして更に飛躍せしめることたるは疑ひない全國の常會よ、さあ進まう！

## 建議案の處理狀況

建議案は本社各支社局を通じて約四百件集つて居ります。これらを幹事の手許で一應分類整理し、その中で主要なものなるべく早く實現を圖つてもらへるやう更にそれらの案の提出班を中心に、社内各方面の衆智を集めて具體案の作成を急いで居りますが、各班から提出された案の中には他班からの提出案と重複乃至は類似したもののが多数ありますので、これらのものは取扱上適當なる項目の下に一括して上通することにしました。本社に於ては今日まで約三百件の議案が提出され前記の如く分類して更に具體案を練つてをります。

- △社業改善に関する建議案
  - 一、編輯長直屬のブレンを作ること
  - 二、編輯部の擴張
  - 三、出先記者の共働班組織
  - 四、寫真部の強化
  - 五、本社支社局相互間の無線連絡の確立
  - 六、各部間の連絡の緊密化
  - 七、ボーイの訓練
- △厚生施設に関する建議案
  - 一、住宅問題の解決
  - 二、共済金融機關の設置
  - 三、互助會の改正

地方より幹事長の手許に寄せられた案件は八月四日まで七十四件の多数に達しました。追つてこれは分類整理の上本社との分と共に入通します。

件數内譯左の通り

- 第一區(東京) 京濱支局(四件)
- 第二區(大阪) 阪神支局(十四件) 岡山支局(四件) 廣島支局(四件) 高知支局(四件)
- 第三區(名古屋) 名古屋支社(三件) 富山支局(三件) 金澤支局(五件) 福井支局(一件)
- 第四區(福岡) 福岡支社(八件) 關門支社(七件) 下關支局(七件) 長崎支局(二件) 熊本支局(三件) 鹿兒島支局(三件)
- 第六區(臺北) 臺北支局(二件) 計七十四件

建議案は隨時とし、御提出下さい。一、案は成るべく具體的に、豫算の伴ふものは豫算概算書も添付して下さい。二、建議案は社用便箋に一件毎に別紙に記入のこと。一、班長より直接送附せず協議員を通じ幹事長へ(案は一應協議員において御検討願ひたし)

幹事長 小寺 巖

自肅運動の提唱

與亞奉公日に當つて職員會の立場から一言御挨拶申し上げます。先般來職員會を通じて三百に餘る建議案が提出されて居ります。このなかには立派な意見があり、また眞剣な呼びかけがあり、一日も早く實現されるやう、主要案件については日下具體案を提出班を中心として練つて居ります。

これは、それらの建議案を上通して社長に「社務の改善には、必ず「厚生施設はこうして貰ひ度い」と希望を申出るからには、そのがたわら自分達の手で出来ることは我々自身が着々やつて行くべきでは無いかと思ふのであります。我々の周囲には手近なところにはやるべきこと、また我々がやらねば出来ない事柄が澤山あります。先づこれらのことを我々の自肅によつて實行して行き度いと思ひます。どうか御賛成下さい。さうして御協力下さい。現に建議案の中からもさう言つた聲が多数出て居ります。二、三その例を挙げますと

「現下の非常時局を乗切つるためには三千の全社員が渾然一體となつて力を合はさなければならぬ。そのためには各自が己れを持つること謙虚で、その分を守らねばならぬ」

「立派な同盟社風の馴致……」

「時局柄、物資愛護の精神を徹底させて社給品、備品等を大切に扱ふこと」

「床の上に飲みさしの水を撒いたり、吹殻を捨てぬこと」

「青年團の清掃工作に社員が協力する事」

など多数の案件が社員の聲として出て居ります。近く方針を樹てまして具體的に運動を開始し度いと思ひますから、皆様の御協力を切にお願ひします。

次にこの機會に一言申し上げ度いことは職員會の機能についてであります。各班の人からしばしば「折角建議案を出しても、それが取上げられなければ何にもならない」と云ふことを聞かれますが、これは我々が希望したものは全部實行してもらへるといふ誤つた考へに基いたものであると思ひます。非常時局に際して我々の個人生活

- 各方面から制約を受けつゝある今日、そこには自ら限度があると思ひます。我々から提出すべき建議案は飽く迄も現實に即し、而も全體的立場に立脚したものでなければなりません。然し社長は職員會の事業に非常に御熱心で、我々の活動に大きな期待をかけられて我々の提出案が全體的に見ても、ものであればそれを實行するに躊躇するもので無いと申されて居られますよつて、いゝものは直ちに實行されなくとも漸次實現されて行くものと確信して居ります。
- 三千の同盟社員が上下一丸となつて同盟精神に溶け入つて居ればこんな疑念も當然解消する筈だと思ひます。職員會は決して勞働組合でもなければ、また社の首脳部と對立するものでもありません。我々は社長の「いゝ案は案は着々實現を圖る」と言はれる言葉に信頼して社員の總意をどうし、建議し、また我々の手で實行し改善して行けるものは片端しから實踐に移して行き度いと思ひます(於興亞奉公日)

班長名簿 (前號の續き)

第二推薦區(大阪)

杉江 武夫(大阪)	一班
高岡 俊一(同)	二
浦上 冬彦(同)	三
千葉 光壽(同)	四
友田 壯一(同)	五
三輪 孝平(同)	六
下條 徹男(同)	七
多田 彌吉(同)	八
西向 雅弘(同)	九
酒井 正秀(同)	一〇
白川 重吉(同)	一一
小原 磯太郎(同)	一二
良本 敬(同)	一三
漆原 治(同)	一四
上野伊三郎(同)	一五

第三推薦區(名古屋)

伊藤 信義(名古屋)	一班
古田 二郎(同)	二
深津 太郎(同)	三
佐藤 政一(同)	四
梶川 博(同)	五
伊藤 峰子(同)	六
川瀬 定司(同)	七
島田 茂明(同)	八
酒井 井平(同)	九
福井 誠正(同)	一〇
井澤 井(同)	一一

第四推薦區(福岡)

村川 武射(同)	一班
山下 正喜(同)	二
波多江 孝(同)	三
吉田 宗男(同)	四
日下部武徳(同)	五
日笠多賀之助(關門)	一班
山崎 一三(同)	二
磯部 政雄(下關)	三
岡崎 保(大分)	四
井生 武夫(長崎)	五
村山 光雄(熊本)	六
伊牟田重雄(鹿兒島)	七

第五推薦區(札幌)

羽入 義夫(札幌)	一班
佐々木武雄(札幌)	二
峰 虎十(小樽)	三
岡本 清吉(函館)	四
佐藤 二郎(旭川)	五
瀧本 直作(豊原)	六

(以下五頁へ)

# 青年團報

## 本社第二回班長會議

七月二十九日午後四時半より發

送部に於て大平副團長及び幹事等出席の下に班長會議を開催非常時に對する諸般の處置班長手帳記入の件、團報を社報に編入及び圖書閱覽開始茶話會の開催の件について協議續いて社員會申入れの事項についての報告あり、六時散會す

一、非常時に對する重要書類等の搬出の件  
重要書類等搬出については搬出物品は一目して瞭然たらしむる爲非常時用袋を作成することを協議、右非常時用袋は目下兩幹事より用度係に製作方交渉中

二、非常時に對する腕章の件  
團員は各班の持場分擔に應じ非常時用別腕章を着用すること

三、班長手帳に記入の件  
班長は班員の善行と認むる事項を記入すること

四、團報は社報に編入する  
團報は第二號より社員會報と連絡を取り社報に編入掲載することとなる

五、茶話會開催の件  
團員相互の親睦を計るため毎月一回晝夜部別に夫々全員一堂に會し茶話會を開催することを決定、委員左の如し

△德島支局開設  
今般德島支局を左記に開設

德島市寺島町稻田跡三五  
電話 五八〇・五八二・五八三  
支局長 酒井正秀

### 原稿募集!

少壯有意の青年同志による同盟通信社に青年團を結成し、其誕生二ヶ月にして早くも團員相互の親睦と連絡とを計る意味で本社に於いて團報第一號を發行しました。

この團報を第二號より社報に編入することとし、本社青年團員と支社局青年團員との連絡を益々密にして行きたいと思ひます。ついでには右主旨を體し、振つて御投稿下さい。尙ほ原稿は十五字詰五十行以内とし本社青年團編輯委員宛毎月三日迄に送付のこと。

## 同盟青年の聲

### 奉公日の實踐

本社第十九班 會我生

初めて本社を訪れた人は皆社員よりボーイに到る迄その地位の上下、仕事の如何を問はず各自がその職務に熱心であり率先働いてゐる事を感じるであらう。然しその人は感歎と共に又こんな事も言ふだらう。これが同盟の本社かこれでも人間の住む處か、まるで豚小屋だ」と少くも心にはさう思つてゐる事だらう。僕も始はさう思つた。そして入社してからも常に清潔に注意し先輩或は同僚にもしばしばその話をした。中には大いに同感してくれた者もあつたが、その殆んどが豚小屋に相應しい人達だつた。

この時豫て計畫中であつた同盟本社青年團の力強い發足を見たのである。おゝこの喜び!この感激!「吾らは同盟青年なり!」この自覺に徹した時吾らの胸底には會つて知らなかつた進軍譜が奏でられた。青年團が出来て特に僕を喜ばしてくれたのは第一回班長會議に於て可決を見た、興亞奉公日の件、清掃と整理廢品回收等の實踐運動についての決議事項だつた。

### 奉公日の實踐

同時に會つて小學生の時に聞いた「一匹の虎多数の蟻と戦つて遂に蟻に降参した」といふ共同一致の偉大さを語る一片の寓話を想ひ起し、吾ら二百餘の團員が一體となつて興亞奉公日を眞に實踐の一日として迎へたならば必ず明るいよりよき吾らの職場が生れる事と思ふ。

八月一日發足以來第二回目的奉公日を嚴肅の裡に迎へた吾々は既定の方針に従ひ各自が率先してそれに當り、好成績を見た。勿論未だ完全とはいへないが清潔整頓もよく行き届いて以前から見ると非常に室内も明るくなつたやうに思はれる。希つてゐた事がかうして少しづつでも完成されるのを見ると自分の事のやうに嬉しく秘かに微笑を禁じ得ない。

### 希望

同第三班 渡邊

戦争それは大きな荒浪である。その荒浪は我々の試練として、我々の頭上に怒濤となつて被ひかぶさつて来た。我々は、それを押切り乗りきらねばならぬ義務と責任とがある。それには堅固な船が必要である。その船は我々の協同力發揮のもとに建造され整備されなければならない。

かくして生れた船。それは同盟本社青年團である。船は完成され早くも二ヶ月、僕は船員の一となつたのだ。波の彼方、そこには大なる希望がある。強い意志、これは最上の武器である。武器を取つて友と共に進まう。希望の彼方、荒浪越えて光明の彼岸へ。

### 青年の使命

同二十二班 宮原

史を緋いて國家興亡の跡を見るに一國の興亡は、一に將來國民の中堅たるべき青年の人格如何にかつてゐる。一國の發展は將來國家の柱石たるべき青年の双肩に託されてゐる。

今や前途益々多事ならんとする秋我國は隣邦の協力により世界平和の指導者となり、八紘一宇の大道を體し、日本個々の文化を發揚し、以て人類の發展に貢獻すべき天職を託されてゐる。

この偉大なる使命の實現に協力し寄與することは、我ら青年の將來における義務である。一意能く徳性の涵養に努め、理想の實現に邁進し、我々に課せられた使命を全うし得る鐵の如き人格を鍛へあげねばならぬ。

### ラジオ

同二十二班 石崎

田園調布のあたりを歩いたことがあつた。  
丘の傾斜の邸宅。  
赤い屋根。ピアノがある應接室。  
ラジオ.....

.....歌謡曲.....渡邊ハマ子.....  
.....歌謡曲.....傷病兵慰問の午後  
.....歌謡曲.....

俺は足にまかせて歩き廻る。  
地面に俯ひつづつた小さい家。  
押せばバラバラになりさうな百姓家。  
浮浪人が住んでゐたやうな道端の

### 祖國に還れ

同五班 生

滿洲事變に端を發した世界新秩序の狼火は今や全世界に擴り西には歐洲新秩序建設が約され、東においては日本を盟主とする大東亞新秩序が建設されんとし、將に世界が一大轉換期に入らんとする。

想へば我らの祖先は極東に大命

# 香 港 花 如 糸

## 殿 木 圭 一

上海、香港四ヶ年の私の生活を  
通じて、朝夕私を樂しませ、私に  
生活の刺戟を與へてくれたのは重  
慶側の支那新聞であつた。毎日そ  
れを讀んで重慶の動向を推知する  
ことは、私たちの飯のたねでもあ  
つたが、それと同時に私たちの心  
の糧でもあつた。日本人は華文  
の文章に一種獨特の美しさを感じ  
る。しかしこれらの新聞にはそれ  
ばかりではなく體當りで敵國たる  
日本にぶつかつてゆくといふ迫り  
がにじみ出てをり、それを讀むた  
びに私たちは興奮を覺えた。

重慶その他異地支那はともかく  
として、上海や香港で民衆をひき  
つづてゆくのはテロ團の特務工作  
と新聞による宣傳工作以外にはな  
い。この意味で重慶側の新聞は敵  
ながらあつたべなものだといつも  
思つた。

この重慶側の新聞界も重慶の中  
央宣傳部の統制が強化されるにつ  
れて最近はいろんな情勢をかもし  
出してゐる。

香港の國民日報と星島日報とは  
各々の批評欄において抗戦以來未  
曾有の言論戦を演じ、後にはそれ  
が泥試合となつた。揚句は國民黨  
海外部直系の國民日報が勝つて、  
華僑の領袖胡文虎の經營する星島  
日報は總編輯金仲華以下多くの犠  
牲者を出した。重慶の壓迫が加つ  
たためである。

大公报は記事が中正でしかも抗  
戰意識の旺盛な點は支那のみなら  
ず、

上海では日本色が濃くなるにつ  
れて重慶側の映畫は影をひそめた  
が、香港ではまだ盛んに抗日寫眞  
が活動小屋にかかる。筋書は大同  
小異で、滿洲生れの姑娘が郷土を  
追はれ、北中南支を轉々として香  
港に現れ、淪落の淵に身を沈める  
と同時に無意識に敵國のために間  
諜行為を行はうとする。その途端  
愛國の青年が現れてこの姑娘を救  
ひ、共に祖國に歸つて抗戦の陣頭  
に立つ。さういふ抗日寫眞が結  
構民衆をひきつける。

抗日寫眞の前には必ず蒋介石  
の寫眞を出し、觀衆は一齊に起立  
して拍手を送る。整然たるもので  
ある。

これに關聯して思ひ出すのは、  
香港の支那人學生のことである。  
香港はスポーツが盛んで、特に蹴  
球熱は大したものであるが、蹴球  
の試合に勝つた大學の男女學生は

選手を先頭にして長い行列を作り  
嚴肅に街を練つて歩く。美しい状  
景である。支那人にこの規律あり  
き、

私の香港勤務中に起つて未だ疑  
問符のままの事件がある。宋美齡  
誘拐未遂事件がそれである。宋美  
齡は最近重慶の生活に堪えられな  
いためか、屢々香港に出て來てゐ  
た。ところが確か二月十二日午前  
三時、香港から定期旅客機で重慶  
へ發つて以來、久しく香港へ出て  
來ない。その内一ヶ月ほど經つて  
香港政廳から香港における宋美齡  
の常用自動車運轉手に逮捕令が  
出た。佐藤剛さんの見つけたサン  
デー・ヘラルド紙の記事は「宋美  
齡を誘拐せんとした廉によるもの  
といはれる」といつてゐる。宋美  
齡の誘拐事件と來たからには、た  
とへそれが未遂に終つたとしても  
興味をひかざるをえない。とりあ  
へずサンデー・ヘラルドの記事だ  
けは打電する。そしていろいろ聞  
いたりするが、誰も真相を知らな  
い。翌朝、支那新聞を片端から探  
すといろいろな記事が断片的に出  
てゐる。どれも臆測の範圍を出な  
いが、宋美齡が二月十一日夜香港  
の隠れ家から啓德飛行場に向ふ途  
中、某支那旅館に誘拐されたとし  
て危機一髪難を免れた——これだ  
けは確實らしい。しかも中村さん  
の話では、宋美齡は蒋介石と結婚  
直後にも上海で誘拐されたことも  
あるといふ。それらを綴り合せて  
第二報を打電した。

ところが事件はあらぬ方へ發展  
した。香港政廳の警察當局は極秘  
にしてゐたこの事件を同盟が取扱  
つたといふのでかかんになつた  
勿論電報はセンサーに押へられた  
そればかりか同盟を訴へると息巻  
いてゐるといふ。幸ひ香港同盟動  
務のドレックさんの斡旋で、警察  
との話し合ひはついたが、それと同

時に支那新聞の記事は一齊影をひ  
そめたし、本筋の事件は迷宮のま  
ま、残念ながら今以て真相を捉み  
えないでゐる。

## テロ、悪疫も 物かは

### 張切る中支總局

霖雨に祟られ悪疫蔓延の中支だ  
が、現在二百の僕達は元氣で頑張  
つて居る。

中支總局では七月十五日職員會  
青年團を結成した。職員會の方は  
上海四班、南京、漢口は各一班、  
南昌、九江、杭州、蘇州、寧波、  
蚌埠は總局の編輯、通信の各班に  
直屬することとなつた。一方青年



團は從來からある青年部(運動部  
教育部に分る)を此の青年團に吸  
收し「先づ體育から」と更に強力  
な歩みを踏出した。  
野球、庭球、水泳、一般の各班  
も夫々殆んど全總局員を符集めて  
錦を削る有様。野球は新公園球場

で隔日練習。對外試合の好敵手を  
物色中。庭球(硬球)は班員最も  
多く、新公園コートは斷然同盟  
で壓えてゐる。水泳は毎年暑休中  
の女學校プールを殆んど獨占的に  
借受け總局員は勿論家族迄も歡ば  
せる。一般班の家族ピクニックも  
よい交遊機關として賑はつてゐる  
また七月からラジオ體操を始め  
た。毎日午後四時半、松方總局長  
以下全員八階屋上で中支の空を吞  
んで「イチ！ニ！」とやつてゐる  
このお蔭で一時流行してゐた編輯  
室内で木剣を振廻すの影を潜め  
た。この外に昨年からズツと續け  
られてゐるものに青年講座と華僑  
講習がある。この青年講座は總局  
青年部教導部が始めたもので毎週  
一回記者交替で時局問題の解説を  
するもので、南京、漢口の各支局  
でも夫々創意的にやつてゐる。一  
方華語講習は二部に分れて全員聽  
講してゐる。  
かくてテロと悪疫の中支にあつ  
て「同盟」は敢然進軍する。

## 職 員 會

### 地方の活動

職員會班結成以來名古屋支社  
(六班)に於ては數次に亘り班常會  
を開催、生活、文化、體育に亘る  
福利厚生と社業改善刷新の問題に  
ついて眞摯な意見が交はされ同盟  
魂の接觸するところ傾聴すべき種  
々の意見又は要望がどしどし提出  
されました。

この中支社内では解決すべきもの  
は一括支社長に上通、反射的に着  
實實踐され、更に検討すべきもの  
は提出班で再検討し劃期的職員會  
當地下部組織は見るべき成果を擧  
げてゐます。  
(第三區協議員伊藤信義君報告)

## 班 長 名 簿

(三頁より續く)

- 第六推薦區(臺北)
  - 中川 義次(臺北班)
  - 畑 敬(臺北班)
  - 第七推薦區(京城)
    - 小倉 彰(京城班)
    - 石出 茂(同班)
    - 高松 謙吉(同班)
    - 川越多見司(同班)
    - 伊藤 福廣(釜山班)
    - 浦野 正男(清津班)
    - 船侍徳太郎(平壤班)
  - 協 議 員
    - △第一推薦區(東京)
      - 小寺 巖(經、外一班)
      - 永由 君人(編、整三)
      - 森 元治郎(編、政三)
      - 高野太一郎(通、地二)
      - 齋藤 玄彦(調、週報)
      - 板谷幸太郎(總、業)
      - 龜井 進一(仙、臺)
    - △第二推薦區(大阪)
      - 千葉 光壽(大阪、四)
      - 白川 重吉(大阪、一)
      - 西川 建三(神戸、四)
      - 井上 肇(岡山、一)
    - △第三推薦區(名古屋)
      - 伊藤 信義(名古屋、一)
      - 酒井 井平(金、澤)
    - △第四推薦區(福岡)
      - 日下部武徳(福岡、五)
      - 日笠 常隆(關門、一)
    - △第五推薦區(札幌)
      - 羽入 義男(札幌、一)
    - △第六推薦區(臺北)
      - 中川 義次(臺北、北)
    - △第七推薦區(京城)
      - 小倉 彰(京城、一)
  - 幹 事
    - 五選幹事
      - 幹事長 小寺 巖(經、外一)
      - 幹事 永由君人(編、整三)
      - 同 森元治郎(編、政三)
    - 指名幹事
      - 幹事 船木 重光(文書部長)
      - 同 田中三之助(人事部長)
      - 同 厚生主任

